

平成28年度第2回精華町社会教育委員会議 会議録

■日時

平成28年5月23日（月）午後1時30分から午後3時30分まで

■場所

精華町立図書館1階集会室

■出席委員

・清水 眞理子 ・田中 智美 ・上村 卓三 ・高鍋 房美 ・福味 真樹紅
・吉川 博文 ・石井 好昭 ・尾崎 麻由美 ・谷 譲二 ・堀内 保寛

■出席事務局職員

・教育長：太田 信之
・教育委員会教育部生涯学習課長：仲村 大
・教育委員会教育部生涯学習課社会教育係長：清田 武宏

■傍聴者

なし

■内容

1 開会

2 平成28・29年度社会教育委員委嘱状の交付

太田教育長より堀内委員に対し、委嘱状を交付。

3 教育長あいさつ

太田教育長

●先日の京都新聞に、新教育委員会制度の特集記事が掲載された。

- 大津市教育長と滋賀大学教授の見解を基とした内容で、滋賀大学教授は「新教育委員会制度をどう活かすか」というテーマで寄稿されていた。
- その寄稿された記事の中では、これまでの教育委員会制度における課題として、学校教育中心主義であったことが言及されている。
- 社会教育と学校教育を教育政策の両輪として進めていく必要があることが強調されており、地域の人材育成や地域のコミュニティ形成にも大きな役割を果たすものとの見解であった。
- 社会教育の方向性においても、講座や教室等、趣味の延長に留まるのではなく、地域の文化や風土に触れ、それを継承していくような視点を養うことが重要とされている。
- 社会教育委員会においても、先の提言を含め、各種の社会教育の取り組みについて、そのあり方について検証いただき、進むべき適正な方向性についてご提案願いたい。

4 報告

(1) 各種行事について

田中委員長

- 年度当初より、社会教育関連事業が数多く予定されている。事務局よりご説明願いたい。

事務局

- 今年度の新規事業として、国際自転車競技連合が公認する国際自転車ロードレースである、「ツアー・オブ・ジャパン」が5月30日に開催される。
- 京田辺市と精華町をまたぐコースが設定され、町内外より数多くの観戦者が訪れることとなる。
- 6月には、毎年度実施している「拡大あいさつ運動」を全校区にて実施する。運動期間は、より一層の参加と、積極的な声掛けをお願いしたい。
- 精華町少年少女合唱団の設立10周年事業の一環として、「けいはんなプラザメインホール」を会場に「ゆずり葉コンサート」を開催する。
- 町外を含めた活動のPRと文化振興を目的とするもので、木津川市を拠点に活動する「合唱団R i n t e」との協働により実施するものである。
⇒質問等、その他特記事項なし。

5 議事

- (1) 平成28年度京都府社会教育委員連絡協議会総会について
- (2) 平成28年度山城地方社会教育委員連絡協議会総会について

田中委員長

- 第1回社会教育委員会議で日程を確認した件となる。開催要項により詳細を確認していきたい。

事務局

- 京都府の総会については、6月10日、綾部市中央公民館で開催され、今年度の研究大会の概要等、事業計画について審議いただく。
- 基調講演では、障害者権利条約の法改正に伴う話題を中心に、京都府発達障害者支援センター センター長様にご講演いただく予定である。
- 山城地方の総会については、6月16日、京田辺市中央公民館で開催され、今年度の研修会の概要等、事業計画について審議いただく。
- 基調講演では、青少年を取り巻く薬物犯罪の実態について、京都府軽本部より講師が招かれる予定である。

⇒質問等、その他特記事項なし。

京都府社会教育委員連絡協議会総会は堀内委員が欠席、山城地方社会教育委員連絡協議会総会は上村委員が欠席である旨、確認。

(3) 社会教育委員の提言について

田中委員長

- 教育委員会に対する提言の進捗状況の確認を進めるため、前回の議論を踏まえ、事務局に関連事業の資料を準備いただいた。その内容について説明願いたい。

事務局

- 前年度にご提出いただいた「提言書」のほか、生涯学習課で取り組む事業概要を記した資料、子育て情報誌「SUKUSUKU」を準備した。
- 生涯学習課の主な事業は、「学校支援地域本部事業」や「精華まなび体験教室事業」である。今年度の予算規模も含め、資料により確認されたい。
- いずれの事業においても、文部科学省の重点事業として進められるもので、本町においても補助金を活用しながら実施しているところである。
- 「SUKUSUKU」は、町で実施する子育て関連事業を集約したもので、毎年度3月に発行されているものである。
- 該当者個別に配布されるほか、子育て支援サークル等を通じ、幅広く周知されている冊子となる。

田中委員長

- 参考資料等をもとに現状を確認し、提言した内容が一つでも実現できるよう議論していきたい。

石井委員

- 提言にある「精華まなび体験教室」の全小学校での実施について、精華

台小学校は休止中であり再開の目途が立っていない。

- コーディネーター、ボランティアといった指導できる人材は多いように感じる一方で、継続的に実施できるよう、どのように進めていくことが適当か検討する必要がある。
- 精華台小学校では、児童数の減少により、今後3年程度で増築したプレハブ教室が余裕教室となる見込みである。
- 余裕教室を活用し、「精華まなび体験教室」の活動拠点とできるほか、地域住民が各種活動を行うため、集うことができる空間とすることも可能である。

清水委員

- 余裕教室の活用は、精華台小学校に限られた課題ではないと考える。
- 学校施設の活用と地域住民への開放をあわせ、地元産野菜や伝統的な食事について学ぶなど、食育に関する取り組みを検討してはどうか。

福味委員

- ボランティアの高齢化が進む中、活動を継承していくため、今後の担い手となり得る若年層にも、ボランティア活動を認知してもらう必要がある。また、積極的に参加していただく必要がある。
- 子育てに忙しい時期ではあるが、より多くの小・中学生の保護者に参加いただけるような取り組みを検討する必要がある。
- 学校施設を活用し、児童・生徒と保護者、地域住民からなるボランティアが集える取り組みを進めてはどうか。

事務局

- 部分的ではあるが、学校を会場に、地域の関係者が一堂に会する取り組みを実施することができている。ただし限られた機会であるため、大きな成果は得られていない。
- 地域の繋がりが醸成できるよう、また、町内の全ての校区で実施できるよう検討していく必要がある。

谷委員

- 取り組みを進めていく上で、地域住民の協力を得るほか、関連団体の協力を要請してはどうか。
- 精華町体育協会では、青少年健全育成に係る事業実施は可能と考える。過去には、長年にわたりサマーキャンプ等を実施してきた実績がある。

吉川副委員長

- 町が発展し、人口が急激に増え、地域コミュニティが希薄化することは全国的な課題である。
- 精華町も同様で、子ども祭りや体育大会など町全体を対象に、継続的に実施することは困難になりつつある。
- 小学校区単位などコミュニティを分割することで、内容の見直しと充実

が実現できるように思われる。

- 既存の関係者や団体のみが関わり事業を実施するのではなく、様々な団体と地域住民が関われるようコーディネートしていくことが重要である。

尾崎委員

- 新たな取り組みの一例として、関西文化学術研究都市精華町として、音楽を通じた交流を検討してはどうか。
- 精華町は、町内児童・生徒の音楽活動が活発であり、多くの大会で優秀な成績を収めている。
- 音楽は、世代や地域などの隔たりを越え、交流を実現する有効なツールと感じている。

高鍋委員

- 当初は限られたメンバーで始めたテニスであるが、定期的に活動することで、近隣住民や児童・生徒、他地域の競技者など幅広いコミュニティを形成することができている。
- 余裕教室など学校施設の活用による地域住民の活動支援は、コミュニティの形成に大きな可能性があるものと思われる。

田中委員長

- 提言した内容の実現に向け、本日のような議論を重ねていきたいと考える。
- 今後の議論においても、教育委員会の現状だけでなく、首長部局の取り組み状況も把握していきたい。

(4) その他

特記事項なし。

(5) 次回委員会議

平成28年7月8日（金）13時30分～

5 閉会